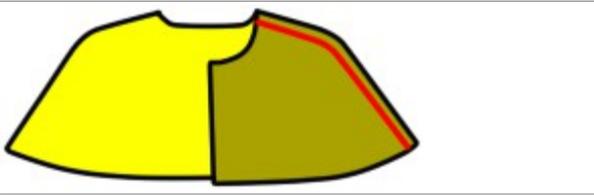
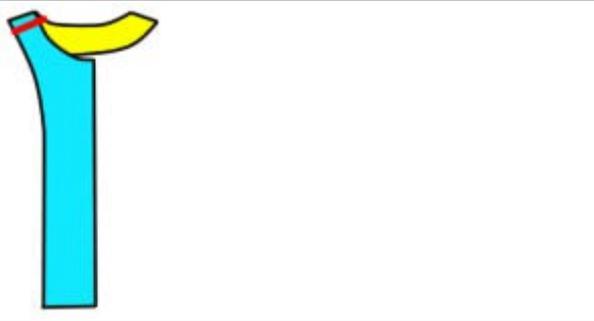
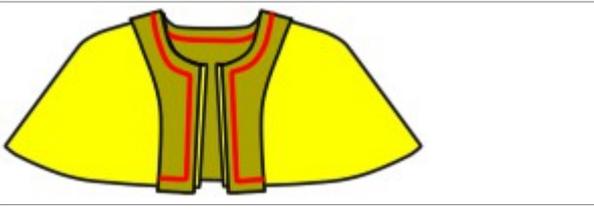
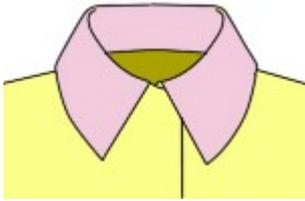
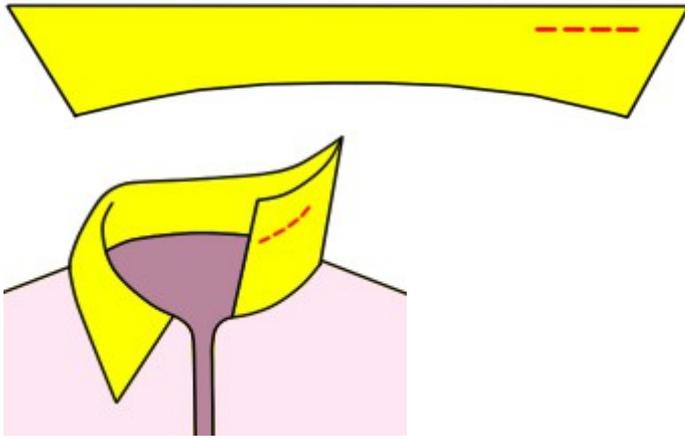


# ケープの作り方

	
	ケープの前後の肩から脇を縫う
	見返しの肩を縫う
	えりやフードを付ける場合はここでえり首に襟を付ける <u>えりの縫い方</u> はつけるえりの種類により2ページ目からの縫い方を参考にして下さい
	見返しを付ける
	アイロンですその縫い代を折る。 すそ→前中心→えりと縫う。



後でえりを折り返すタイプの  
シャツカラー



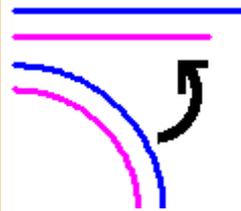
どちらが表から見えるえりか、裏に隠れるえりかわからなくなりやすいので、しつけ糸などで、裏に隠れる方のえりに印をつけておく。



図 1

えりのゆるみを作る理由。

このタイプのえりは図のように表に折り返すためのカーブと首にそったカーブ(図 1)がありますね？



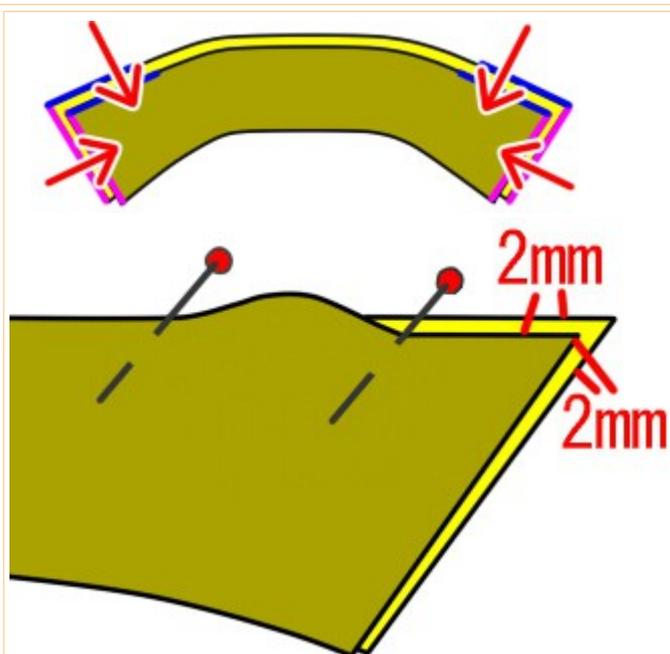
外側のカーブと内側のカーブでは外側のほうが長く、内側が短くなります。

なのでその分を補うために2~3mm表になるほう(外側に折り返すほう)を内側に入れ込んで、長さを調節する必要があります。

これをしないと図 2 の右のえりのように引きつってえりの先がぴよこっとあがってしまうので注意が必要です。



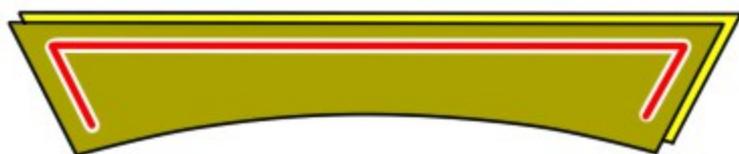
図 2



えり先のゆるみを作る。

このとき図 A のように「表に見えるほうのえり」(印の付いていない方)を2~3 mm内側にずらしてまち針をさす。

しわが入らないように、目打ちなどでダブ付いた分を押しこむようにして縫う。



シャツカラーの縫い方

衿(えり)を表が内側になるよう(中表)に二枚重ねて縫う。

※衿に縫い付ける所は縫わない。

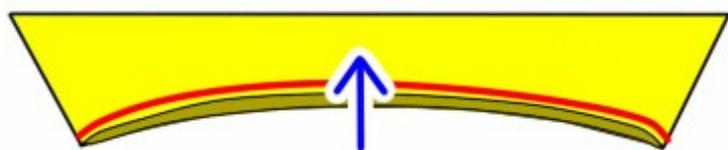


表に返して5mmの所にステッチ(形が崩れないように表から押さえ縫い)をかける



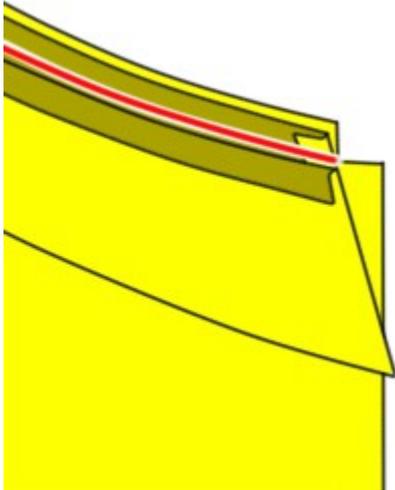
印がある方へえりに付ける部分の縫い代を折る。

この時えりがずれます。  
このずれが折り返しの緩みになります



上で出来たずれを、そのままに端から0.5 cmの所を縫う

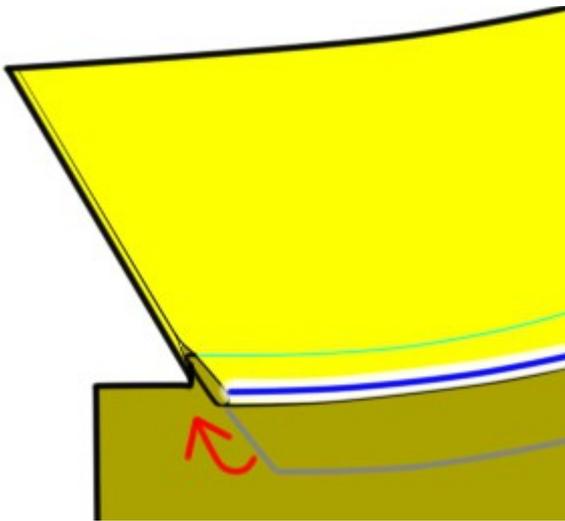
見返しにはさまないタイプ



えりを身頃のえり首に縫いつける。

裏側の台えりをよけて表側の台えりだけ縫いつける。

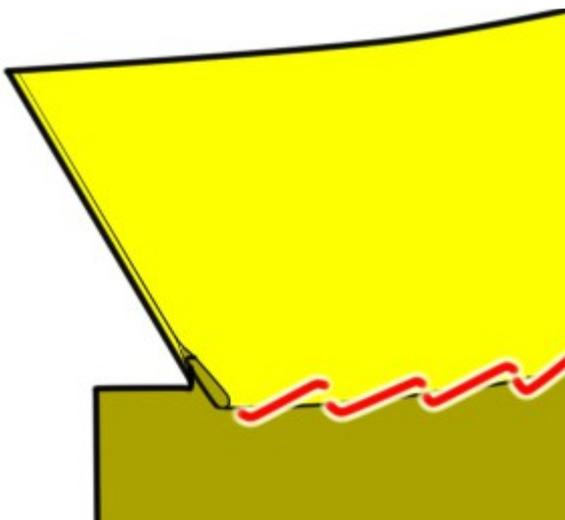
えりのゆるみを入れる部分の参考になるのは



裏のえりの縫い代を中に入れる。

端から2～3 mmの所をしつけ糸で縫う。

(大きい縫い目でよい)



しつけ縫いの2～3mm上をミシンで縫うか、手縫い(まつり縫い)でえりを閉じる。

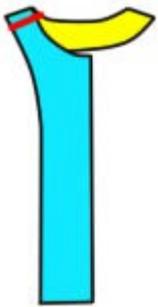
## 見返しにはさむタイプ



印を付けていない方のえりを上にして身頃に重ねる。

端から 5mm の所を縫う。

えりの端は、身頃の前中心の印に合わせる。

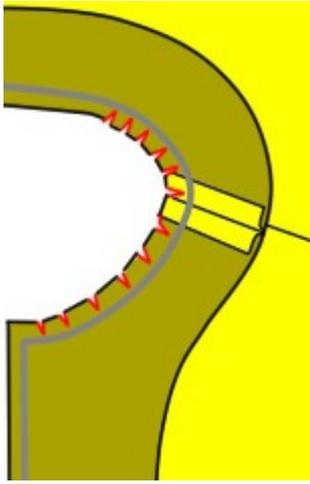


前と後ろの見返しの肩を縫う



見返しを裏を上にしてかぶせる。

えりと見返しの縫い代を縫う

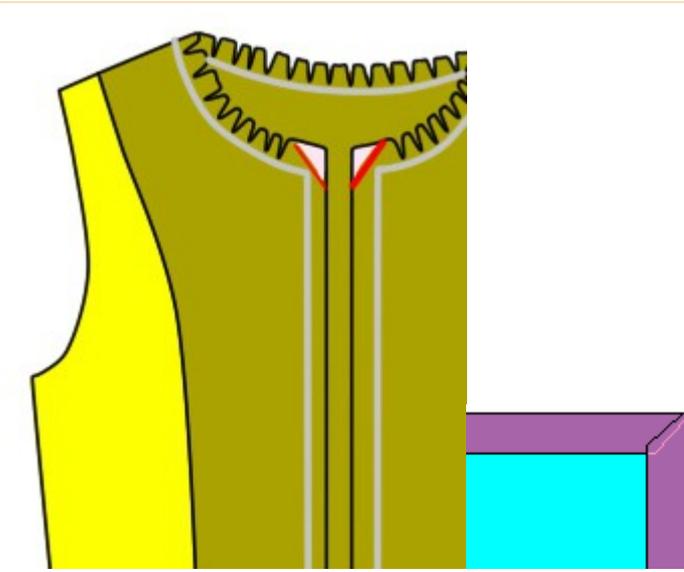


えりの縫い代のカーブの所は切込みを忘れずに。

切込みを入れず見返しを裏がえすと引きつった感じになります。

(試しに切り込みをいれずに裏返してみてください、そうすると意味が分かると思います)

縫い目を切らないように気をつけてね。



縫い代の角を切り落とします

角を折りたたむようにして表に折り返します。

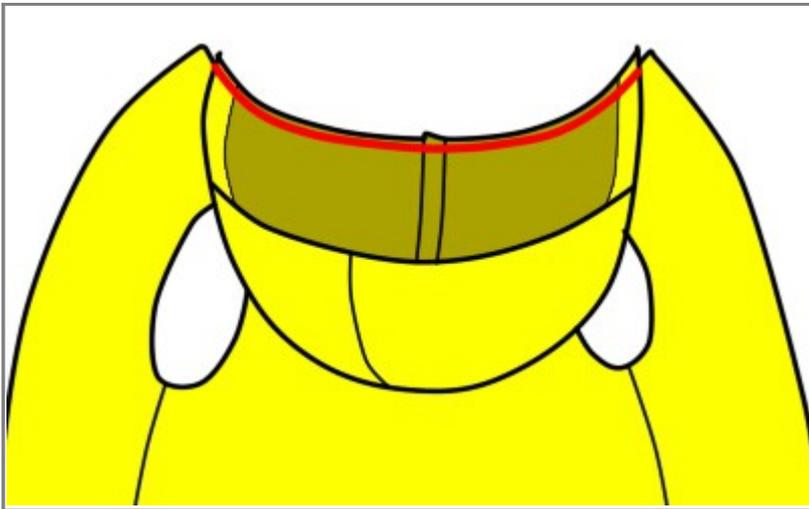


えりをよけて端から3~5mmの所を縫う。



フードの縫い方

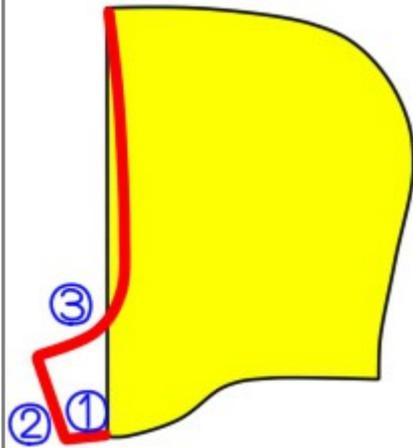
	<p>縫い方</p> <p>2枚のフードの生地を内側が表になるように縫います</p>
	<p>縫い代をどちらか片方に倒して縫い目から2～5 mm程度の所を表から縫って、縫い代を固定します。</p>
	<p>顔が出る所の縫い代を裏側にアイロンで折って、ミシンで縫います</p>



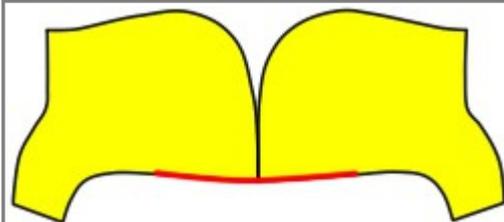
フードの表と、身頃(胴体部分)の表が合わさるように重ねて、えり首を縫えばフード付け完成。



このようにフードのえり首の部分が立ちあがったタイプにする場合



- 1) 下側を前身頃の重なり分と同じだけ延長する。
- 2) 垂直にお好みの長さまで線を引く。
- 3) フリーハンドで線を引く



赤い部分がとがらないようになだらかにする。